

2

円滑な接続を行うために

(1) 円滑な接続のために取り組むこと

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のためには、以下の4つのポイントを押さえながら取り組むことが重要です。

ポイント1：幼児教育と小学校教育の特徴や違いを理解する

ポイント2：「接続期に育みたい子どもの姿」を設定・共有する

ポイント3：円滑な接続を意識してカリキュラムを作成する

ポイント4：カリキュラムをもとに保育・教育活動、幼児児童の交流を進めるとともに、カリキュラムの見直し・引き継ぎを行う

以下ポイントごとに具体的にどのようなことに取り組むことが重要か示します。

ポイント 1 : 幼児教育と小学校教育の特徴や違いを理解する

保幼小の円滑な接続に向けて、まずは、幼児教育と小学校教育の特徴や違いを理解することが重要です。

【幼児教育】

幼児期の教育では、幼児の自発的な活動としての「遊び」を通して、様々な体験や学びの芽生えを積み重ねることができるよう、保育者が環境を構成し、一人ひとりに応じた総合的な教育活動を行っています。

【特徴】

- ・ 基本的な生活の単位が1日
- ・ 興味・関心に応じた時間の配分により生活する
- ・ 遊びを通して総合的に学ぶ（体験・経験による学び）
- ・ 保育・教育活動の「ねらい」は「方向性」を意味する
- ・ 保育者が環境を構成しながら、幼児の環境へのかかわり方を支援する
- ・ 一人ひとりの興味・関心に基づき活動が展開されるため、個やグループでの遊びや学びが多い



【小学校教育】

小学校では、各教科等の目標の到達を目指して、適切な教育課程を編成し、決められた時間割に基づき、教科書等の教材を用いて各教科等の内容を計画的に学習していきます。

【特徴】

- ・ 45分を1単位とする
- ・ 時間割に基づいて生活や学習をする
- ・ 教科を中心に系統的に学ぶ（体験を論理的思考につなげる学び）
- ・ 授業の「ねらい」は「到達度」を意味する
- ・ 教科書等の教材を用いて教師の指導助言により学習を進める
- ・ 教師が全員に共通の教材や場を設定し、学級集団で学ぶことが多い



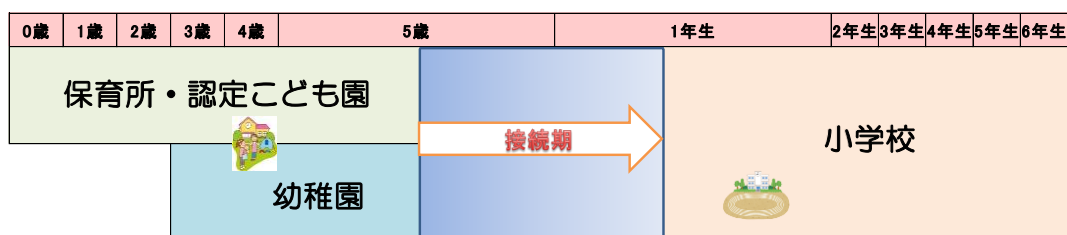
ポイント2：「接続期に育みたい子どもの姿」を設定・共有する

幼児教育と小学校教育の特徴や違いを理解した上で、幼稚園等と小学校の教職員が、接続期にどのような子どもを育みたいかを設定・共有することが重要です。このように、両者が同じ子どもの姿を共有しながら、保育・教育活動を行うことで一貫性・系統性のある活動につながります。

①接続期の考え方・時期

本手引きは、幼稚園等と小学校の、学びや生活の環境に大きな開きがあり、保育・教育活動、指導の一貫性・系統性を特に意識する必要があると考えられる、5歳児の10月から小学校1年生の7月までを「接続期」としています。

幼児教育と小学校教育をつなぐ接続期は、単なる小学校教育への準備期間や馴れるための期間として捉えるものではなく、幼稚園等の経験や活動が小学校の生活や学びに適切につながっていくよう、幼児期と児童期の接続をお互いに意識する期間です。特に、幼児教育においては、小学校教育の先取りをするのではなく、幼児期にふさわしい生活が行われ、発達に必要な豊かな経験が得られるよう、見通しをもって、保育・教育を行う必要があります。



※市町によっては、幼稚園等の年齢が異なる場合があります。

②「接続期に育みたい子どもの姿」について

本手引きでは、「接続期に育みたい子どもの姿」として、

- ・幼稚園等や小学校の違いから、小学校入学時、子どもたちの生活・学びに問題が生じやすく、円滑な接続を意識した保育・教育活動、指導を行う必要がある事柄
- ・小学校以降の生活・学びを円滑に行っていくために、小学校1年生7月頃までに身に付けておきたい事柄

について、どの時期にどのような姿を育みたいかを整理しました。次頁に一覧表を載せています。

接続期に育みたい子どもの姿

		5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月		
自立の芽生え	健康で安全な生活を送る	手洗い、うがいなどの生活習慣が身に付くようになる						必要ときに自分の意思で手洗い、うがいなどができる					
		決まった時間にトイレに行く						休み時間にトイレに行き、排せつをすませる					
		食べ物に関心を持ち、好き嫌いをなく食べようとする						食べ物や栄養に関心を持ち、何でも食べようとする					
		自分の身を自分で守ろうとする						危険がわかり、危険から身を守ろうとする					
	いろいろな遊びのなかで十分に体を動かし、様々な活動に楽しんで取り組む						体を動かす楽しさや喜びを味わい、いろいろな動きを楽しむ						
	自分のことは自分でする		一日の生活の流れの見通しをもつようにする						時間割やチャイムに合わせて行動する				
		進んで衣服の着脱などの身支度をしようとする						自分で身支度をする					
		自分の持ち物を整理整頓する						学習用具の準備や持ち物の管理が自分でできるようにする					
人とかかわる		自分からあいさつをする						周りの人にすすんであいさつをする					
		話している人をみて話を聞いたり、自分の思いを話したりする						場に応じた聞き方や話し方がわかり、人の話を最後まで聞いたり、自分の考えを相手にわかるように話したりする					
まなぶ力	好奇心や探究心をもつものとかかわる	手で触ったり、繰り返してやってみたり、繰り返して比べたりしながら、これまでの体験と関連づけて考える						学校生活や授業で幼児期に育んだ体験を生かす					
			いろいろなものに関心を持ち、考えたり、工夫したりして遊ぶ						学習や学校生活での課題の解決に自ら取り組もうとする				
	文字や数字に興味・関心をもつ		遊びのなかで、文字や数にふれ興味や関心をもつ						ひらがなや漢字などを学び、本を読んだり、文章を書いたり、計算したりする				
	感じたことや考えたことを表現する		思ったことや感じたこと、イメージしたことなどを、言葉や身体で表現する						言葉や絵、動き、文章など様々な方法で、自分の表したいことを表現する				
豊かな心	自己肯定感ややり抜く力を高める	友だちや先生の励ましや助けをかりて自分でやり遂げた満足感を味わい自己肯定感を高める						めあてをもって最後まで挑戦し、達成感をもつ					
	友だちと協同して取り組む		進んで友だちとかかわり、互いのよさを認め合おうとする						友だちと一緒に活動する中で、お互いを理解し、仲良く助け合おうとする				
	命を大切にする		親しみやすい動植物に触れる機会を持ち、いたわったり大切にしたりする気持ちをもつ						動植物の世話などを通して、命の大切さに気づき大切に世話をしようとする				
	善悪を判断し、約束を守る		してよいことと悪いことがわかる						してはいけないことを自分で判断する				
		きまりの必要性がわかり、きまりを守りながら生活する						学校のきまりがわかり、してよいことと悪いことを判断しながら行動する					

③「接続期に育みたい子どもの姿」に係る3つの柱について

「接続期に育みたい子どもの姿」について、その内容等を踏まえ、以下の通り3つの柱に整理分類しました。

1)「自立の芽生え」

小学校に入学すると、

- ・自ら、身の回りを清潔にしたり、危険なことがわかって回避して行動したりする
 - ・自ら、整理整頓したり、規則正しい生活を送ったりする
 - ・時間割に沿って行動したり、授業中集中して先生の話の聞いたりする
- など、健康で安全な生活を送ったり、学びを円滑に進めたりするために、身の回りのある程度のことを自らの意思で支援者の援助なく行うことが求められます。

このため、このような事柄を「自立の芽生え」として整理しました。

2)「まなぶ力」

小学校に入学すると、国語や算数等の教科学習が始まります。民間の調査研究によれば、年長児期の「言葉」の力（自分のことばで順序をたてて、相手にわかるように話せる、など）が小学校1年生での「学びに向かう力」（協調性、がんばる力など）「文字・数・思考」につながっているという研究結果もあります。幼稚園等での経験や学びが小学校での学びに円滑につながるよう、お互いの学びを意識した保育・教育活動、指導を行っていく必要があります。

このため、小学校以降の確かな学力につながる事柄を「まなぶ力」と整理しました。

3)「豊かな心」

小学校では、学級単位の活動や、グループ学習、係活動など、集団での活動が増えます。このため、共通の目的をもって友だち同士で協力して物事に取り組むことがこれまで以上に求められます。また、命を大切にする心や道徳性・規範意識を涵養することをはじめ、最後まであきらめずやり遂げようとする力を育んだり、やり遂げたことなどに伴って自己肯定感を高めたりすることも、子どもたちが生涯にわたって幸福な人生を自ら作り出していく上で重要です。

このような、子どもたちの心の健全な発達に関わる事柄を「豊かな心」と整理しました。

【自立の芽生え】

- 健康で安全な生活を送る
- 自分のことは自分でする
- 人とかかわる



【まなぶ力】

- 好奇心や探究心をもってものとかかわる
- 文字や数字に興味・関心をもつ
- 感じたことや考えたことを表現する



【豊かな心】

- 自己肯定感ややり抜く力を高める
- 友だちと協同して取り組む
- 命を大切にする
- 善悪を判断し、約束を守る



④ 「接続期に育みたい子どもの姿」の設定・共有について

幼稚園等と小学校の教職員間で、本冊子における「接続期に育みたい子どもの姿」(6頁)を参考にしながら、子どもたちの実態を踏まえ、「接続期に育みたい子どもの姿」について話し合います。

1) 保幼小の教職員間の話し合いの場

接続期に育みたい子どもの姿を設定・共有するための保幼小の教職員間の話し合いの場としては、幼稚園等の保育参観や小学校の授業参観、行事への参加の機会をはじめ、小学校区等での引き継ぎの機会などが考えられます。特別な場を設定することもあるかもしれませんが、既存の場がある場合は、活用するよう工夫してください。



2) 子どもたちの実態の把握

育みたい子どもの姿を設定してカリキュラムを作成したり、具体的保育・教育活動、指導を行ったりするに当たっては、子どもたちの実態を踏まえることが重要です。実際の子どもたちの活動の様子や、教職員等が子どもたちにどのように関わっているかを直接見ることで、どのようなところで困っていてどのように声かけなどを行っているのか、子どもたちがどのように成長しているのか、などを具体的に知ることができ、今後の保育・教育活動、指導に生かすことができます。幼稚園等の保育参観や小学校の授業参観等の機会を通じて、子どもたちの実態把握に努めてください。

ポイント3：円滑な接続を意識してカリキュラムを作成する

「接続期に育みたい子どもの姿」の実現を目指し、教職員は、具体の保育・教育活動を進めていく必要があります。保育・教育活動を進めていくに当たっては、各幼稚園等・小学校で作成するカリキュラムに円滑な接続に資する内容を盛り込んでいくことで、計画的に取組を進めていくことができます。

①カリキュラムの作成について

幼稚園等と小学校の教職員間で共有した「接続期に育みたい子どもの姿」を意識しながらカリキュラム等を作成します。子どもの実態を踏まえて、保育・教育活動や指導の工夫を取り入れたカリキュラムを作成してください。12頁から円滑な接続のための保育・教育活動、指導の工夫例を示していますので参考にしてください。

その際、

◇成長の姿を週や月の単位ではっきりさせる

◇成長の姿に合った保育内容や単元（合科・関連など）を配列する

◇保育内容や単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分することを意識して作成してください。

<参考：スタートカリキュラムスタートブック>

平成26年度に国立教育政策研究所が「スタートカリキュラムスタートブック」を作成しています。スタートカリキュラムは、「小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム」であり、このスタートブックは、スタートカリキュラムの編成の仕方、進め方をまとめたものです。

特に生活科を中心とした、スタートカリキュラムの中で、合科的・関連的な指導も含め、子どもの生活の流れの中で、幼児期の終わりまでに育った姿が発揮できるような工夫を行いながら、総合的に育まれた、資質・能力等を徐々に各教科等の特質に応じた学びにつなげていくことが必要です。

スタートカリキュラムの参考として、スタートカリキュラムスタートブックを活用してください。

また、国立教育政策研究所幼児教育センターにおいては、スタートカリキュラムスタートブックの他、幼児教育に関する情報等が掲載されています。参考にしてください。

国立教育政策研究所 幼児教育センター

http://www.nier.go.jp/youji_kyouiku_kenkyuu_center/information.html



ポイント4：カリキュラムをもとに保育・教育活動、幼児児童の交流を進めるとともに、カリキュラムの見直し・引き継ぎを行う

円滑な接続を意識してカリキュラムを作成したら、カリキュラムをもとに実際の保育・教育活動、指導を行います。

①幼児児童の交流

ポイント2で述べたように、保幼小の教職員間で交流を行うことも重要ですが、教職員だけでなく、幼児児童が交流を行っていくことも保幼小の円滑な接続を図る上で重要です。

子どもたちが、入学前から小学校を訪問するなどの交流の機会を設けることは、子どもたちの入学への不安を解消し、小学校生活への意欲につながることができます。また、小学校の子どもたちにとっては、幼稚園等の幼児に関わることで、小さい子どもへの関わり方等を学んだり、自分たちの成長を感じたりすることにつながります。



接続期に育みたい子どもの姿や子どもたちの実態を踏まえながら、効果的な交流となるよう心掛けて取り組んでください。

②カリキュラムの見直し・引き継ぎ

カリキュラムは作成されて終わりではなく、次年度以降に向けて見直しや引き継ぎが適切に行われることが重要です。カリキュラムに基づく保育・教育活動、指導を行って成果や課題があれば把握しておき、改善すべき点は、小学校であれば、長期休業後の学校生活への適応に向けて、実際の指導に生かしましょう。

また、カリキュラムはデータ等で共有できるようにしておき、次年度のカリキュラム作成時の参考にしましょう。

(2) 円滑な接続のための保育・教育活動、指導の工夫例

ここでは、カリキュラムを作成したり、実際に保育・教育活動、指導を行ったりする上で参考となる活動・指導の工夫例を載せています。

<項目について>

6頁に掲載した「接続期に育みたい子どもの姿」に沿って以下の項目で示しています。

1 自立の芽生え

- (1) 健康で安全な生活を送る
- (2) 自分のことは自分でする
- (3) 人とかかわる

2 まなぶ力

- (1) 好奇心や探求心をもつものとかかわる
- (2) 文字や数字に興味・関心をもつ
- (3) 感じたことや考えたことを表現する

3 豊かな心

- (1) 自己肯定感ややり抜く力を高める
- (2) 友だちと協同して取り組む
- (3) 命を大切にする
- (4) 善悪を判断し、約束を守る

<内容について>

①幼稚園等・小学校の特徴・様子

幼稚園等・小学校の特徴や様子を記述しています。お互いの学校種の状況を把握・理解することに役立ててください。

②接続期に育みたい子どもの姿

幼稚園等・小学校の特徴や違いを踏まえ、接続期において、どの時期にどのような姿を育みたいかを整理した表です。カリキュラム作成や実際の保育・教育活動、指導を行う上で目指す子どもたちの姿を設定する際に活用してください。

③保育・教育活動、指導の工夫例

「接続期に育みたい子どもの姿」を踏まえて、実際にどのような保育・教育活動、指導を行ったらよいかその工夫例をまとめたものです。実際に活動・指導を行う上で活用してください。

1 自立の芽生え

(1) 健康で安全な生活を送る

① 幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・ 食事をする前に手を洗ったり、活動の合間にトイレに行ったり、汗をかいたとき着替えをしたりするなど、機会を捉えて保育者や保護者に促されながら、自分でやっている。
- ・ 昼食はお弁当と給食の場合がある。
- ・ 遊びの中で、遊具や用具の正しい使い方や危険な場所などを知っていく。
- ・ 散歩や自然の中での活動を通して、運動遊びの楽しさや仲間と体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。



(小学校)

- ・ 外遊びの後には手を洗ったり、状況に応じて汗の始末をしたり、安全に気をつけて登下校したりするなど、健康面や安全面について、自分で判断して行動する機会が増える。
- ・ 昼食は給食の場合が多い。
- ・ 体育の時間の運動をはじめ、休み時間に遊具を使って遊んだり、鬼ごっこやドッジボールなど集団での遊びを楽しんだりしている。

② 接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
手洗い、うがいなどの習慣が身に付くようになる						必要なときに自分の意思で手洗い、うがいなどができる			
決まった時間にトイレに行く						休み時間にトイレに行き、排せつをすませる			
食べ物に関心を持ち、好き嫌いをなく食べようとする						食べ物や栄養に関心を持ち、何でも食べようとする			
自分の身を自分で守ろうとする						危険がわかり、危険から身を守ろうとする			
いろいろな遊びのなかで十分に体を動かし、様々な活動に楽しんで取り組む						体を動かす楽しさや喜びを味わい、いろいろな動きを楽しむ			

③保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<p>【生活習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事の終了時刻を意識したり、活動と活動の合間に排せつをすませたりできるようにする。 ○うがいや手洗いなどの必要性がわかるよう、養護教諭等による保健指導を行ったり、関係のある内容の絵本などの読み聞かせをしたりする。 ○うがいや手洗いの習慣がつけられるよう、毎日の生活の中で繰り返し行うようにする。 	<p>【生活習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トイレの使い方について、少人数グループで丁寧に指導し、休み時間にはトイレに行くよう、その都度声かけをする。 ○給食の配膳は、簡単なものから任せるようにし、徐々に自分たちでできるよう、校内体制も合わせて整えておくようにする。
<p>【安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○園内の遊具の使い方や道路や横断歩道の歩き方について、子どもたちと一緒に確認する。 	<p>【安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活科の授業などで、校内で危険な場所や遊具の使い方などを子どもたちと確認するようにする。
<p>【健康・体力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養バランスに考慮した食材を用いた弁当となるよう保護者に協力を依頼する。 ○体の様々な部分を意識して動かす、走る、跳ぶ、投げるなどの運動遊びや、鉄棒、とび箱、縄跳びなどの遊具や用具を使った遊び、自然を取り入れた遊びなどを取り入れるようにする。 ○遊具等は、幼児の興味や関心が向くよう、幼児の動線に配慮した配置を工夫する。 ○縄跳びや竹馬などでは、チャレンジカードなどを使い、子どもたちの関心を高め、できたという達成感を味わえるようにする。 	<p>【健康・体力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食事の量は個人差が大きいため、給食では自分で量を調整するなどして、徐々に食べられるようにするなどの工夫をする。 ○体育の時間の始めに、鬼ごっこやリレーなど幼稚園等で経験している遊びを取り入れたり、体育の時間に遊具を使った運動を積極的に取り入れたりする。 ○幼稚園等での遊びを生かした準備運動などを行い、けがをしないよう気をつけられるようにする。

(2) 自分のことは自分でする

①幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・一日が子どもの生活の基本単位となっており、活動の時間は、子どもの発達段階、興味や関心などに応じて構成されている。
- ・一人ひとりが自分で考え活動に取り組む時間と、クラスで活動する時間を取り入れている。
- ・着替えや持ち物の整理を自分でできるようにしている。



(小学校)

- ・時間割があり、児童は時間割に沿ってチャイムなどを意識しながら行動している。
- ・1単位時間(45分)の間、椅子に座って授業を受けるのが一般的である。
- ・一斉に授業を受けたり、指示により一斉に行動したりすることが多い。
- ・自分の持ち物は自分で整理・整頓し、学習用具の準備も自分でしている。

②接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
一日の生活の流れの見通しをもつようになる						時間割やチャイムに合わせて行動する			
進んで衣服の着脱などの身支度をしようとする						自分で身支度をする			
自分の持ち物を整理整頓する						学習用具の準備や持ち物の管理が自分でできるようにする			

③保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<p>【一日の生活の流れに見通しをもつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カレンダーや黒板に行事や活動予定を記入し掲示する。 ○日にち、曜日、天気、一日の活動の流れを朝の会などで確認する。 ○始まりと終わりを意識して活動を行うようにする。 	<p>【時間割やチャイムに合わせて行動する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動の見通しが立てられるよう、時計に印をつけたり「長い針が〇になったら終わります」などと伝えたりするようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

<p>【生活環境や生活習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○机やいすを使って活動する時間を意識して取り入れる。 ○クラスで一緒に活動を行う時間や発達に応じた活動内容を少しずつ増やすようにする。 ○小学生との交流や授業体験などを行うようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ○幼児が起床・就寝時間や、食事の内容、テレビ等のメディアの視聴時間などを意識して規則正しい生活を送れるよう、生活習慣チェックシートなどを活用して、子どもたちが意欲的に取り組めるようにする。 	<p>【教室環境や生活習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学当初は集中できる時間を考慮し、モジュールによる学習時間（15分ごとなど）を設定する。 ○朝に歌や体操、読み聞かせなどの活動的な要素を取り入れる。 ○入学当初は、話を始める前に、手遊びなどで注目させるなどの工夫をする。 ○子どもが学習内容に興味や関心を持ち、わかりやすく満足感をもてるような授業の構成を工夫する。 ○就学後も児童が起床・就寝時間や、食事の内容、テレビ等メディアの視聴時間などを意識して規則正しい生活を送れるよう、生活習慣チェックシートなどを活用して、子どもたちが意欲的に取り組めるようにする。
<p>【身の周りの物の整理整頓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の服は自分でたたむ習慣をつけるようにするとともに、決められた時間での着替えを意識するようにする。 ○自分のロッカーの中を整える機会をもつようにする。 	<p>【身の周りの物の整理整頓】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○音楽が終わるまでに着替えるなどの工夫をし、時間を意識して体操服に着替えができるようにする。 ○机やロッカーの整理の仕方を図示するなどしてわかりやすく示し、機会あるごとに確認するようにする。 ○学習に必要な物の準備は、一斉指導の中で行い、徐々に自分で準備できる物を増やしていく。

(3) 人とかわる

① 幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・一人ひとりの興味や関心に基づいた活動が行われているため、個やグループでの遊びや学びが多い。
- ・子どもたちが安心して話すことができる雰囲気や、気軽に言葉を交わすことができる信頼関係のなかで、自分の思いや考えなどを話している。

(小学校)

- ・担任や同級生だけでなく他の教職員、上級生など、自分と関わる人が多くなる。
- ・同じ年代の関わりを楽しみ、学級集団で学ぶことが多い。
- ・授業の中で疑問や質問は、相手の話が終わってから聞く、話したいことは挙手して指名されてから話すなどの発言のルールがある。
- ・自分自身の経験や考えを発表する場面が入学当初からあり、徐々に人前で話すことが多くなる。
- ・生活や学習において、順序立てて話したり、友だちと互いの思いや考えを伝えたり、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動している。
- ・自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えるようにしている。

② 接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
自分からあいさつをする					周りの人にすすんであいさつをする				
話している人を見て話を聞いたり、自分の思いを話したりする					場に応じた聞き方や話し方がわかり、人の話を最後まで聞いたり、自分の考えを相手にわかるように話したりする				

③ 保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<p>【あいさつ】</p> <p>○相手の目を見てはっきり挨拶をするなど、あいさつの仕方を繰り返し伝えるようにする。</p> <p>○散歩などで、地域の人々と出会えるような環境を工夫し、子どもたちが地域の人々と会話をする機会を取り入れる。</p>	<p>【あいさつ】</p> <p>○あいさつができていることをほめながら意欲づける。</p> <p>○地域との交流などの時には、地域の人々とのかわりから学んできた、相手に応じた話し方や振る舞いなどを生かすようにする。</p>

【聞く・話す】

- 自信をもって意見や考えが出せるような活動を意識して取り入れる。
- 聞くとき、話すときのルールや姿勢などについても知らせながら、集団で話を聞いたり話したりする経験を少しずつ増やしていく。
- 発表会の取組などで、保育者がコーディネートする中で自分の意見を言い、友だちの思いも聞きながら、学級全体で話し合っ一つのを作り上げていく経験ができるようにする。
- 遊びの中で自分の思いを伝えたり、友だちの思いを取り入れたりしながら、遊び込む経験を大切にす。

【聞く・話す】

- 安心して自分の意見が言えるよう、まずは教師が一人ひとりの発言を受け止め、次第に学級での話し合いのルールや発表のルールなども使い、安心できる学級づくりを行う。
- 読み聞かせなど、一斉活動の中で話の内容をしっかりと聞き取れるような場面を、多く取り入れるようにする。
- 話を聞く場面では、前に集まって聞く、園での環境を取り入れるなど工夫する。
- 指示を出す時は、一回一指示にし、指示内容が行動に移せているかの確認を行い、できていることを認めるようにする。
- 発言の仕方や、話型などを提示し、みんなの前で発言するときに自信をもって行えるようにする。

2 まなぶ力



(1) 好奇心や探求心をもってものとかかわる

① 幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・身近な自然体験や社会現象、遊びを通して、直接見たり、触れたりする体験の中で、様々なことに気づいたり、試したりしながら、知的好奇心や探究心が育っている。

(小学校)

- ・観察や実験などを行い、自然の事物や現象の共通点や差異点を捉えることなどを通じて、その性質や規則性を把握している。

② 接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
手で触ったり、繰り返してやってみたり、繰り返して比べたりしながら、これまでの体験と関連づけて考える						学校生活や授業で幼児期に育んだ体験を生かす			
いろいろなものに関心を持ち、考えたり、工夫したりして遊ぶ						学習や学校生活での課題の解決に自ら取り組もうとする			

③ 保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ○砂場での水遊び、ドングリなどの自然のものを使った遊びなどから物の性質や法則などへの気づきや好奇心などを大切にする。 ○園での自然の現象や季節の変化などに気づき、疑問に思ったことなどを試したり、調べたりできるように、環境を工夫するようになる。 ○安全面に配慮しながら園外に出かけたり、園内においては、見たり、触ったり、においをかいだりするなどの五感が育つような実体験をたくさんできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの興味や関心を生かせるよう授業の導入を工夫する。 ○授業等の際には、子どもたちが視覚的にとらえられるような教材の提示や学んだことがわかるような掲示等の工夫をする。 ○生活科などの教科学習では、他教科との合科的、関連的な指導を図り、活動などをバランスよく取り入れた授業の展開を工夫する。 ○幼稚園での植物を育てた経験などを把握し、生活科の授業などで扱う植物などについて考えるようになる。 ○各教科等で、見たり、触ったり、においをかぐなどの実体験を通して得た気づきを、言葉や絵などの方法で表現させることにより自覚を促すようになる。 ○子どもたちがやってみようとする気持ちを認め、励ましながら、学習への意欲が継続できるようにする。



(2) 文字や数字に興味・関心をもつ

①幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・かるたや人数を報告するなど、遊びや生活の中で文字や数字を使うことで、文字や数字への興味や関心をもって活動している。

(小学校)

- ・国語や算数などの教科等において、教科書を使いながらひらがなや漢字、数字、計算などを学ぶ。

②接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
遊びのなかで、文字や数にふれ興味や関心をもつ						ひらがなや漢字などを学び、本を読んだり、文章を書いたり、計算したりする			

③保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ○園生活の中で、自然に文字や数に触れる活動を取り入れたり、環境を構成したりする。 ○身近に本に触れられるような環境を構成する。 ○かるた遊びや、手紙ごっこなどの遊びを楽しむことを通して、文字や絵などを使って伝える喜びや楽しさを味わえるようにする。 ○なわとびで跳んだ回数を数えたり、数の多い少ないを比べたりするような場面を捉えて、数に触れる体験を増やす。 ○すごろくなどの数字を使った遊びなどを取り入れるようにする。 ○絵本や物語などの読み聞かせを行い、楽しさを十分味わうことによって、言葉に対する感覚が養われるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園等でどのような活動を行ってきたかの状況を把握することで、文字に親しんだり、数を数えた経験を生かしたりしながら、授業の中で理解に結びつけるように工夫する。 ○特に入学当初は、具体物の操作や量感を養う活動などを工夫して行うようにする。

(3) 感じたことや考えたことを表現する

① 幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・豊かに表現できる環境として、遊具や用具などが設定された環境や友だちの表現に触れられる環境のなかで、自分の思いを体や言葉をつかって表現している。


(小学校)

- ・自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて表現方法を選んで伝えている。
- ・観察したものを絵にしたり、気付いたことや考えたことを言葉や文章で表したりしている。

② 接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
思ったことや感じたこと、イメージしたことを、言葉や身体で表現する						言葉や絵、動き、文章など様々な方法で、自分の表したいことを表現する			

③ 保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<p>○感じたことや、考えたことを様々な方法で表現することの楽しさや充実感を味わえるようにする。</p> <p>○自分が感じたことや体験したことを、絵に描いたり、身体でのびのびと表現したりできるよう、保育者の援助を受けながら、自分のイメージした作品をいろいろな素材を使って作る楽しさを味わえるようにする。</p> <p>○五感を通して気づいたことや感じたことを、言葉や絵などで表現する機会を意図的に取り入れる。</p> 	<p>○図工や音楽などでは、クレパスなどで絵を描いたり、工作したり、みんなが知っている歌を歌うなどすることで、安心して楽しめる工夫をする。</p> <p>○音楽の時間以外にも、みんながよく知っている歌を歌う機会を設けて、歌う楽しさを味わえるようにする。</p> <p>○生活科の発表の場などでは、様々な表現方法を取り入れた発表の場を工夫する。</p>

3 豊かな心

(1) 自己肯定感ややり抜く力を高める



① 幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・子どもたちが意欲的に様々なことに興味を示しながら、「がんばったからできた」「友だちの意見を参考にしたらできた」といった成功体験を重ね、自分に自信をつけている。

(小学校)

- ・教科学習や学校活動において、学級全体又は自らで目標を持ちながら、自ら取り組んだり友だちと協力したりする機会が多くある。

② 接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
友だちや先生の励ましや助けをかりて自分でやり遂げた満足感を味わい 自己肯定感を高める						めあてをもって最後まで挑戦し、達成感をもつ			

③ 保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ○保育者は一人ひとりの発達に応じて援助し、最後まで子どもを見守り励ましながらか子どもの気づきを待ち、子どもに自分でやりきったという達成感を味わわせるようにする。 ○わからないことや困ったことがあるときに、友だちや保育者に聞けるような雰囲気をつくっておく ○保育者との信頼感を基に、安定した情緒で友だちや身近な人々などに自分からかかわりがもてるよう援助する。 ○友だちのよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わえるようにし、自分の感情や意志を表現しながら、共感し合う体験を大切にする。 ○子どもたちが苦手なことにチャレンジする機会やあきらめずにやってみようとする意欲が育まれるよう、保育者の意図的な関わりや環境づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもがどこでつまづいているのかをしっかりと把握したうえで、自分の力できるようにし、達成感をもたせる。 ○すぐに教師などの大人が教えるのではなく、一人ひとりの取り組む姿勢を認め、友だちとのつながりを考慮しながら、助け合えるようにしていく。 ○一人ひとりの考えや思いを大切にし、友だちの思いや考えにも気づき、認めたり受け入れたりすることを大切にするようにする。

(2) 友だちと協同して取り組む

① 幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・ 保育者や気の合った友だちと過ごすことが多い。
- ・ 自分たちで好きな遊びを見つけ、遊びについてやり取りをしたり、工夫したりする中で、友だちとの関わりを学んでいる。
- ・ 当番や係活動、生き物の世話などを子どもたちで行っている。

(小学校)

- ・ 気の合った友だちだけでなく、同じ学級の児童や他学年の児童と関わる機会が多くある。
- ・ 授業におけるグループ学習など、複数の児童で意見を出し合ったり意見をまとめたりしながら、活動する機会が多い。
- ・ 責任をもって係活動を行ったり、一斉に掃除をしたりするなどの活動がある。

② 接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
進んで友だちとかかわり、互いのよさを認め合おうとする						友だちと一緒に活動する中で、お互いを理解し、仲良く助け合おうとする			

③ 保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで遊んだり活動したりすることが楽しいと思えるよう、ルールや決まりを子どもと一緒に考えながら工夫して活動を行えるようにする。 ○気持ちに折り合いをつけたり、ともに一つのことを成し遂げた喜びを共有することで、協同して遊ぶ楽しさを味わうようにする。 ○集団を意識できるように、クラス全体で楽しいと思えるような遊びや体験活動をする機会を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師や友だちとの信頼関係が築けるような集団づくりを行う。 ○入学当初は、集団に慣れていないため、一人ひとりを意識しながら一斉指導などを行う。 ○休み時間は、一人になる子などがいないよう教師も一緒に声をかけ合わせたり、みんなで遊びをする時間を作ったりする。 ○安心して自分の意見が言えるよう、教師が一人ひとりの発言を受け止め、次第に学級での話し合いのルールや発表のルールなどを使い、安心できる学級づくりを行う。 ○小学校では一番下の学年となるが、年長児のときのリーダーとなってやりきった経験などを生かすようにする。 ○当番、係活動を通して、やり遂げた満足感や一体感がもてるようにする。

(3) 命を大切にする

①幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・遊びや生活の中で、園の周りの身近な自然や、生き物などと触れ合うなどの体験を通して、命の大切さを感じている。

(小学校)

- ・学校生活の中で動植物と関わったり、道徳科の授業などで、命の大切さ、生きることについて考えたりすることを通して、命のあるものを大切にしたり、生きることの素晴らしさを自覚したりしている。

②接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
親しみやすい動植物に触れる機会をもち、いたわったり大切にしたりする気持ちをもつ						動植物の世話などを通して、命の大切さに気づき大切に世話をしようとする			

③保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ○動植物に触れる機会を通じ子どもたちの気づきが深まるよう、子どもたちの気づきを保育者が言葉にして伝えるようにする。 ○飼育や栽培活動などを通して、命あるものとしていたわり、命を大切にする気持ちを育めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園での植物を育てた経験などを把握し、生活科の授業などで扱う植物などを工夫する。 ○道徳の授業では、生き物を育てた経験などを振り返らせながら、自分のこととしてとらえられるような授業を展開するようにする。

(4) 善悪を判断し、約束を守る

①幼稚園等・小学校の特徴・様子

(幼稚園等)

- ・生活や遊びの中でしてよいことや悪いことがあることがわかり、考えて行動するようになっていく。

(小学校)

- ・学校・学級のきまり、学習のきまりなど、きまりを守ることが集団生活の基礎となる。
- ・幼児期の体験を基礎として、自分で善悪や安全・危険の判断をし、学校や学級などのきまりを守るようにしている。
- ・道徳の授業をとおして、学年段階にそって、道徳性を培っている。

②接続期に育みたい子どもの姿

5歳児 10月	11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
してよいことと悪いことがわかる						してはいけないことを自分で判断する			
きまりの必要性がわかり、きまりを守りながら生活する						学校のきまりがわかり、してよいことと悪いことを判断しながら行動する			

③保育・教育活動、指導の工夫例

幼稚園等	小学校
<ul style="list-style-type: none"> ○してよいことや悪いことを場面をとらえて自分なりに考えられるようにする。 ○園生活の中で、子ども同士のトラブルや、やりたいことがうまく進まない場面などをとらえて、自分たちで考え、約束を守ることの大切さ等に気づくよう援助する。 ○危険な場所や守るべききまりを、みんなで話し合ったり、幼児がわかるように視覚的に表示して意識できるようにしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しく遊ぶためにはどうするかをクラスで考えたり、それぞれの考えを出し合ったりする場を大切にし、ルールが守れるようにする。 ○学級での約束やきまりなどが守られたときは認め、自分たちできまりを意識して行動できるようにする。 ○幼稚園等で培われた道徳性や規範意識を土台として、道徳科の授業などで自分のこととして考え道徳性が確実に培われるようにする。